

## ＜ 改善報告書検討結果（豊田工業大学） ＞

### [1] 概評

2016（平成 28）年度の本協会による大学評価において、貴大学に対して、改善勧告として1項目、努力課題として1項目の改善報告を求めた。これを受けて、貴大学では、「自己点検・評価委員会」を中心に検討を行い、学部・研究科において改善活動に取り組んでおり、改善勧告については改善が認められる。ただし、努力課題については、以下に示すように改善が不十分なため、更なる対応を求める。

改善勧告に関しては、学部の学生の受け入れ（改善勧告No.1）について、工学部先端工学基礎学科において、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均及び収容定員に対する在籍学生数比率がそれぞれ1.20、1.27と高くなっていたものの、現在はそれぞれ1.05、1.08となっており、改善が認められる。

一方で、努力課題に関しては、大学院の学生の受け入れ（努力課題No.1）について、「優秀な博士学生の確保」を目的とした「修士・博士一貫教育プログラム」等を開始し博士後期課程への進学を促しているものの、収容定員に対する在籍学生数比率が工学研究科博士後期課程で0.28と依然として低いため、改善が望まれる。

以上の事項について、引き続き改善に取り組むとともに、貴大学が掲げる理念・目的の実現のために、不断の改善・向上に取り組むことを期待したい。

### [2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

### [3] 各指摘事項に対する改善状況

#### 1. 努力課題について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	5. 学生の受け入れ
	指摘事項	収容定員に対する在籍学生数比率について、工学研究科博士後期課程が0.22と低いので、改善が望まれる。
	評価当時の状況	博士課程委員会において、博士後期課程の在籍学生数比率が低いという認識は共有できており、在籍学生数、特に学内進学者を増加させるための議論は行っていたが、実効性のある施策が打てていなかった。
	評価後の改善状況	本学は工科系の単科大学であり、博士後期課程における入試からカリキュラム、学位授与までのすべ

	<p>てを、博士課程委員会が全学的な立場で管理している。</p> <p>2015 年度末に博士課程委員会の期末方針の点検において、状況改善に向けて「優秀な博士学生の確保」を目的とした「修士・博士一貫特別コース（仮称）」を設置する方針を立てた。（資料 1-1-1）</p> <p>この方針に基づき、2016 年度に博士課程委員会において具体的な検討を進め「修士・博士一貫教育プログラム」の素案を作成し（資料 1-1-2）、専任教員会議に提案をして、承認がなされた。（資料 1-1-3、1-1-4）</p> <p>そして、2017 年度から「修士・博士一貫教育プログラム」を開始した。本プログラムは、修士課程と博士後期課程において一貫した教育を行うことで教育効果を高めることと、経済的な理由で博士進学を迷っている学生が安心して修学できるよう修士課程在籍時からの経済支援をパッケージとしたプログラムである。（資料 1-1-5）</p> <p>また、プログラム設置とあわせて、学生に対する説明会や進路ガイダンスの一環として博士後期課程 0B による講演を実施するなど、博士後期課程への進学の促進を図った。（資料 1-1-6、1-1-7、1-1-8、1-1-9）</p> <p>その結果、2017 年度から 2020 年度の間に修士・博士一貫教育プログラムに 3 名の学内進学者が選抜され、そのうち 2 名は修士課程を修了し、博士後期課程に進学した。（資料 1-1-10、1-1-11）</p> <p>これらの取組みについては、博士課程委員会の委員会方針点検表（資料 1-1-12）および自己点検・評価報告書（資料 1-1-13）で評価し、自己点検・評価委員会による点検（資料 1-1-14）および学長所見によるフィードバック（資料 1-1-15）を受け、以降の改善につなげることとしている。</p> <p>なお、2020 年 5 月 1 日時点の在学生数は 10 名であり、収容定員に対する在籍学生数比率が 0.28 となり 2015 年度時点の比率 0.22 から改善が図られ</p>
--	---

	た。(資料 1-1-16、1-1-17、1-1-18) 今後も、博士後期課程入学生の確保に向けて、引き続き、努力する所存である。
改善状況を示す具体的な根拠・データ等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1-1-1 「2015 年度博士課程委員会 委員会等方針点検表」(2016 年 4 月 8 日)」</li> <li>・1-1-2 「2016 年度第 12 回博士課程委員会議事録 (2017 年 1 月 26 日)」</li> <li>・1-1-3 「修士・博士一貫プログラムの概要 (2017 年 2 月 21 日)」</li> <li>・1-1-4 「第 478 回専任教員会議議事録 (2017 年 2 月 21 日)」</li> <li>・1-1-5 「大学院工学研究科 修士・博士一貫教育プログラム特別選抜要項 (2018 年度選抜者用)」</li> <li>・1-1-6 「修士・博士一貫教育プログラム説明会のお知らせ (2017 年 5 月 29 日)」</li> <li>・1-1-7 「進路ガイダンスの開催について (2017 年 9 月 28 日)」</li> <li>・1-1-8 「2018 進路ガイダンス (2018 年 9 月 27 日)」</li> <li>・1-1-9 「2019 進路ガイダンス (2019 年 9 月 26 日)」</li> <li>・1-1-10 「第 489 回専任教員会議議事録 (2017 年 11 月 20 日)」</li> <li>・1-1-11 「第 504 回専任教員会議議事録 (2018 年 11 月 26 日)」</li> <li>・1-1-12 「2019 年度博士課程委員会 委員会等方針点検表&lt;期末点検&gt; (2020 年 5 月 8 日)」</li> <li>・1-1-13 「自己点検評価報告書_博士課程委員会 (2019 年度)」</li> <li>・1-1-14 「委員会方針点検表確認シート (2019 年度期末点検)」</li> <li>・1-1-15 「学長所見_博士課程委員会 (2019 年度)」</li> <li>・1-1-16 「2020 年度第 2 回博士課程委員会議事録 (2020 年 5 月 8 日)」</li> <li>・1-1-17 「大学 基礎データ表 3・2020 年 5 月 1 日)」</li> <li>・1-1-18 「大学 基礎データ表 4・2020 年 5 月 1 日)」</li> </ul>	

## 2. 改善勧告について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	5. 学生の受け入れ
	指摘事項	工学部先端工学基礎学科において、過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均及び収容定員に対する在籍学生数比率がそれぞれ 1.20、1.27 と高いので、是正されたい。
	評価当時の状況	入学者数比率が高かった理由として、当時の入学定員 80 名の 10 倍近い入学志望者があり、その殆ど

		<p>が国立大学併願者のため、実際の入学者数を正確に予想することが極めて困難な状況であったことがまず挙げられる。その中で本学の卒業生の輩出期待が極めて大きい産業界の要望に応えるためには、定員を大きく下回ることは是非とも避けたい、との判断の下、教育効果に影響を与えない範囲で、安全サイドで合格者数を決めていた傾向があった。</p> <p>また、在籍学生数比率が高かったことは、入学者数が定員に対して多かったことが主要因ではあるが、別の観点として、厳格な成績評価を行っていることにより留年者数が多くなったことも起因していた。</p>
	<p>評価後の改善状況</p>	<p>改善勧告の指摘を受け、次の2つの対策を行ってきた。</p> <p>1点目は、入学定員の改定(1学年80名から90名へ10名増加)を行ったことである。平成28年8月に定員変更に係る学則変更が認可され、平成29年4月から入学定員を90名へ変更した。この申請において、入学定員増の理由を本学志願者の増加傾向と定員超過への対応として、認可を得ている。</p> <p>2点目は、入学定員管理を一層徹底したことである。具体的には、①入学者数が入学定員(90人)の95~100%になることを第一義的な目標とし、最大でも96人(実験・実習科目が適切に実施できる人数規模)以内とする(資料2-1-1)、②当初合格者数をおさえ定員不足分は追加合格で補う(資料2-1-2)、としたことである。</p> <p>本学では、入学試験委員会が入学者選抜の計画・運営・合否判定などを担当しており、ここで改善方法を具体化させた。対応プロセスは次のとおりである。</p> <p>1次選考・2次選考からなる一般選抜では、いずれも入学試験委員会が合格者素案を作成し(資料2-1-1)、専任教員会議(全専任教員が参加)にて審議・決定する(資料2-1-3)。専任教員会議では、合格者の最終決定を行うだけでなく、受験状況の把</p>

	<p>握とそれに基づく合否案策定の経緯も確認することで、入学試験委員会による合否判定の妥当性も検証している。</p> <p>2次選考の当初合格者の公表後、入学試験委員会は入学手続状況を精査して追加合格の発動を検討・決定する（資料 2-1-4）。入学辞退者を含む手続完了者の状況は専任教員会議で報告される（資料 2-1-5）。</p> <p>入学者の確定後、入学試験委員会は結果を総括する（資料 2-1-6）。その結果は、委員会等方針点検表（資料 2-1-7）および自己点検・評価報告書（資料 2-1-8）で評価し、自己点検・評価委員会による点検（資料 2-1-9）ならびに学長所見によるフィードバック（資料 2-1-10）も得ることで、継続的な業務改善につなげている。</p> <p>これにより、先の認証評価では過去5年間の入学定員に対する入学者数比率が1.20で、在籍学生数比率が1.27であった値が、5年後の今年は、それぞれ、1.05と1.08に改善された（資料 1-1-17、1-1-18）。</p> <p>なお、在籍学生数比率の高さについては、厳格な成績評価による留年者の多さも一因となっていた。しかし、前述のとおり、入学定員を適正に管理することで本比率の改善もなされており、成績評価については、厳格な対応を継続している。</p>
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 2-1-1 「2019年度入学試験委員会議事録（2020年2月7日）」、「2019年度入学試験委員会議事録（2020年2月21日）」</li> <li>・資料 2-1-2 「入試結果データ（2011～2020）」</li> <li>・資料 2-1-3 「第523回専任教員会議議事録（2020年2月8日）」、「第524回専任教員会議議事録（2020年2月21日）」</li> <li>・資料 2-1-4 「2019年度入学試験委員会議事録（2020年3月12日）」</li> <li>・資料 2-1-5 「第527回専任教員会議報告資料2020年3月23日」</li> <li>・資料 2-1-6 「2020年度入学試験委員会議事録（2020年4月16日）」</li> <li>・資料 2-1-7 「2019年度入学試験委員会方針点検表（2020年5月13日）」</li> </ul>

- |   |
|---|
| ・資料 2-1-8 「自己点検評価報告書_入学試験委員会 (2019 年度)」 |
| ・資料 2-1-9 「委員会方針点検表確認シート (2019 年度期末点検)」 |
| ・資料 2-1-10 「学長所見_入学試験委員会 (2019 年度)」     |

以 上